

TOP MESSAGE

スマートエナジーパートナーとして、 FDKグループのビジョンを実現し、 持続可能な社会の実現と発展に貢献する。

2019年10月にFDKグループのさらなる経営体質強化と企業価値の向上を図るため、FDKグループのビジョンのブラッシュアップを行うとともに、様々なステークホルダーの方々の期待にお応えすべく、10年後のあるべき姿として「10年の計」と、このあるべき姿の実現に向けた最初の3年間(2020年～2022年度)の中期事業計画[R1]を策定いたしました。

「FDKグループは、スマートエナジーパートナーとして、先進技術を結集し、お客様に電気エネルギーを安心して効率的に活用いただき、持続可能な社会の実現と発展に貢献します」というビジョンにもとづき、提供する製品やサービスを通じて社会課題の解決に貢献してまいります。

FDKグループのCSRマネジメント

FDKグループでは「FDKグループCSR基本方針」を制定し、その実践にあたって重点的に取り組むCSR基本方針にもとづく7つの重点課題を定めています。これらの課題への取り組みを通じて、グローバル企業として責任ある経営を推進しています。取り組みの推進にあたっては、CSR推進委員会を設置し、FDKグループのCSR活動の基軸となる「FDK企業行動指針」および富士通グループの理念である「FUJITSU Way」の浸透、定着を図るとともに、CSR基本方針にもとづく7つの重点課題の取り組み状況の定期的なレビューを行っています。CSR基本方針にもとづく7つの重点課題である、「持続可能な社会の実現と発展に貢献する」「地球環境保全への対応」、「多様性の受容」「地球と社会に貢献する人材の育成」、「ステークホルダーとの対話と協力」、「コンプライアンスの徹底」「コーポレート・ガバナンスの強化」に関する責任ある取り組みを進め、社会課題の解決に貢献する「本業を通じたCSR」を実践し、当社のビジョンの実現に努めています。

経営の基盤となるコーポレート・ガバナンスに関しては、その充実が企業の健全性、透明性の向上と株主価値の向上につながるものと考えており、コーポレートガバナンス・コードの原則を踏まえた各施策、必要に応じた経営体制・組織の見直し等を実施しています。

また遵法を確実にし、社会的な要請に対応するため、全社横断的な組織として「安全衛生委員会」、「リスク・コンプライアンス委員会」、「環境管理委員会」、「含有化学物質管理委員会」、「輸出管理委員会」などを設置し、また、消費者課題については「製品安全化推進委員会」を設置して、適切な品質、安全性を確保するための品質保証体制の充実を図っています。さらに、よりグローバルな視点でCSRの取り組みを進めるため、国際的なCSR規範(ISO26000および富士通グループとして加入しているRBA)等への準拠活動を国内外の事業拠点、事業活動を構成する各社内プロセス、およびサプライチェーンに展開しています。

これらの取り組みを着実に進め、継続的に改善し、FDKグループのビジョンの実現を確かなものにしてゆきたいと考えています。

従業員とともにビジョンの実現に向けて

FDKグループのビジョンを実現するうえで最も大切な経営資源は人材であると認識しています。CSR基本方針にもとづく重点課題の一つに「多様性の受容」を掲げています。これまでの事業の変遷の過程で、異なる企業文化や考え方を持った人材を有しており、このような多様な人材をよりいっそう活かすことを含め、従業員のさらなる活躍とイノベーションの創出につながる取り組みを進めてまいります。また、人材に関わるCSR基本方針にもとづく重点課題として「地球と社会に貢献する人材の育成」を掲げています。階層別研修、専門能力強化、グローバルビジネスリーダーの育

FDK

成などの研修、技能習得機会を充実させるとともに、従業員満足度調査を実施し、その結果を分析・対策することで、FDKグループのビジョンの実現を牽引するグローバルに活躍できる人材の育成に注力してまいります。

バッテリーソリューションの提供を通じて、持続可能な社会の実現と発展に貢献

FDKグループではSMD対応小型全固体電池、ニッケル亜鉛電池、水素/空気二次電池などの次世代電池の開発や事業化を進めています。既存の製品やサービスに加え、今後の社会の発展を支えるIoT、モビリティ、社会インフラなどの市場にこれらの次世代電池を始めとする新たな製品を提供してまいります。

また、FDKグループでは、SDGs(国連の提唱する持続可能な開発目標)のうち特に4つの目標の達成への貢献に注力することを掲げています。SDGsへの貢献のアプローチとしても重視されているアウトサイドインの視点で、社会課題の解決につながる取り組みをバッテリーソリューションの提供を通じて進めてまいります。

本レポートを通じてFDKグループのCSR活動についてご理解を賜われればと存じます。今後のFDKグループの取り組みのため、ステークホルダーの皆様からの忌憚ない、ご評価、ご意見を賜りますようお願い申し上げます。

FDK株式会社
代表取締役社長
長野 良